

# 医療安全情報「つなぐ」 No.3

発行日：平成27年10月22日  
発行元：長崎県 医療政策課  
担当者：馬郡、中川  
連絡先：095-895-2464

## 特集1 「患者情報共有ツール」

ベッドサイドで入院患者さんのケアやリハビリを行う際、患者さんの状況が一目で把握できるツールがあるととても便利です。電子カルテ化が進んだ病院では PDA 端末を用いて即座に情報を把握できますが、県内の病院におけるオーダーリングシステム導入率が4割程度（H26年度県立保健所管内病院立入検査結果39.5%）ですから、電子カルテと PDA 端末まで整備されているのは全体の3割にも満たないのではないかと推測されます。

そこで、今回は、PDA 端末等がなくても、独自のツールを用いてベッドサイドで患者情報を共有している「公立新小浜病院（雲仙・南島原保健組合開設、医療法人社団苑田会管理運営）」様の取り組みをご紹介します。患者情報の共有は、個人情報の共有であり、その管理には関係法に基づき慎重かつ適切な取り扱いが求められます。運用開始から10年の経験を持つ公立新小浜病院様が、どのように患者情報を保護しながら療養環境の向上に努められているか、そして、患者さんやご家族との「かけはし」として利用されているのか、是非ご一読いただき、業務の参考にいただければ幸いです。

「療養環境の向上を目指した情報共有ツールの活用」 公立新小浜病院 看護部長 山本 リヨエ

## 1 病院の特徴

当院は、急性期一般病棟90床と回復期リハビリテーション病棟60床を持つケアミックス病院で、健診（予防）から急性期治療・総合リハビリテーションまで一貫した医療を提供しています。

昨年11月から循環器内科、今年6月から脳神経外科の診療が加わり、今年度からは訪問看護・往診も始めました。当院は島原半島でも数少ない急性期から療養までをカバーする病院として、「患者様の痛みを共有する心を涵養する」ことを理念に日々患者様のケアに取り組んでいます。

## 2 「情報共有ツール」と導入の経緯

もう10年以上前になりますが、患者様の情報を共有できるツールがないかと模索し、当時の医療安全担当看護師等が中心となって、ベッドサイドのホワイトボード掲示を始めました。学会や他院の方法を参考にしたものではなかったため、掲示する内容や情報把握・管理の方法は何度も見直し作業を行いました。

詳しくは後述しますが、情報ツールは（1）ホワイトボード、（2）車椅子カード、（3）活動度チェック表の3つで構成されていて、（1）は全ての入院患者さんに、（2）（3）は回復期病棟の入院患者さんに使用しています。なお、活動自立度を表す色シールは患者さんのコップ等にも貼って、日常的なケアに活用しています。

## 3 「情報共有ツール」の使用方法

### （1）ホワイトボード

情報共有ツールの中で、ホワイトボードが最も利用するツールです。ここに記載する主な情報は、①患者様の基本情報（氏名、年齢、入院日、担当職員等）、②ご家族への連絡・共有事項、③患者さんと相談した目標、④生活情報（移動、排泄、食



写真1 病院全景



写真2 ご紹介いただいた看護部の皆さん  
山本看護部長（左）  
医療安全担当・本村看護師（中央）

事等）、⑤環境情報（柵・ブザー等）です。

なお、本ボードの情報は、リアルタイムな情報でなければ意味がないので、毎朝のラウンド（ウォーキングカンファレンス）の結果を基に受け持ち看護師が更新しています。

また、掲示場所も実際に使用する看護師とリハビリ職員が患者さんに意見を聞きながら、試行錯誤して、今の場所に設置しました。情報共有が目的ですから、短い言葉を使用すると共に、図等も積極的に用いています。（写真3・4参照）

### （2）車椅子カード

ホワイトボードの中から、患者さんの活動自立度を表す「色シール」だけを標示しています。（写真6参照）

### （3）活動度チェック表

上記ホワイトボードや車椅子カード等に記載する情報の元となるのが活動度チェック表です。入院時や定期的なアセスメントの結果と毎朝のラウンド結果を記載し、この情報を基に各種ツールに記載しています。（活動度チェック表は誌面にスペースが確保できなかったため、長崎県ホームページに掲載しています。）

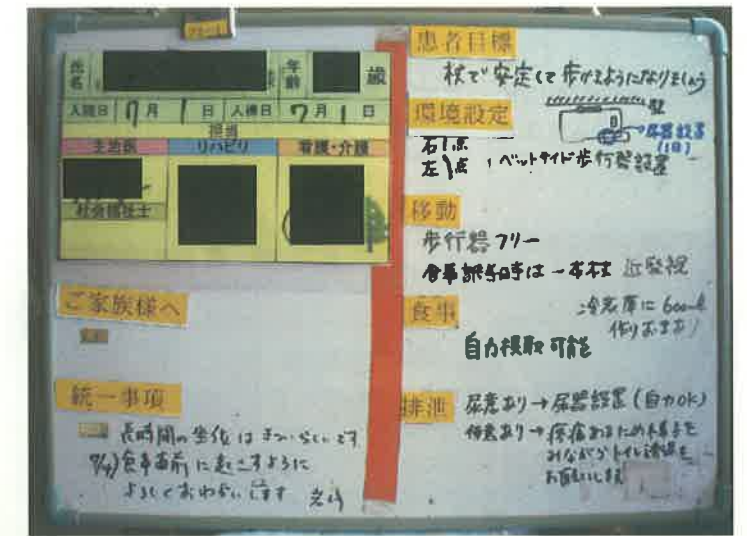


写真3 ベッドサイドのホワイトボード

## 4 導入後の効果

患者様と接する看護師・PT・OT・ST・看護補助者等が、容易に患者様のADLを把握でき、患者様に寄り添って、同じ対応ができるようになりました。ポータブル撮影を行う診療放射線技師や心電図・エコーを行う臨床検査技師にも情報提供できています。また、患者様からは、「一緒に決めた目標を確認できる」、「目標に向かって頑張れる」、「これを見ながら家族に自分の状況を説明できる」等のご意見をいただいています。

毎日はお見舞いに来るこのとできないご家族の方にとっても、主治医や受け持ち看護師が誰か、どんな行動までできるのか、何を目標に頑張っているのか、病院側からの連絡がないか等を把握することができ、安心に繋がっていると思います。導入後10年を経て、当院の看護には欠かせないツールの一つです。

## 5 ホワイトボード掲示と個人情報保護

共有に必要な情報だけに絞る、患者様や他の患者様に知らせてはいけない内容を記載しない、知られたくない内容（例えば、紙・布オムツ、リハビリパンツ等）は記載する言葉に略式記号を用いる、医療用語をあえて用いる等の方法で配慮しています。本当はもっと記載したい内容もありますが、知らせてはいけない情報や個人のプライバシーに関わる内容は、ミーティングで周知を図り、カバーしています。また、これまで患者様からの非掲示希望は受けていませんが、入院時には患者様からの同意をいただいています。

## 6 現在の課題と今後の展望

共有情報を正確に、かつタイムリーな情報として管理することが課題です。そのため、前述の（1）～（3）の記載情報を常に同一に保つ、ラウンドや定期的なアセスメントで最新の情報に更新する、職員が同じ認識・行動を取れる記載を行うことを目標に取り組んでいます。また、このツールは他職種連携のツールですから、医療安全管理委員会の看護・リハビリ職員を中心に見直し等の管理を行うと共に、医療安全担当看護師には、リスクマネージャー研修の受講や本ツールをレポートテーマとして取り組ませてきました。今後も医療安全管理委員会と連携して取り組んでいきたいと考えています。

近い将来、私たちの施設は建て替え工事を行う予定です。ですから、看護計画や看護記録等のシステム、既存のツールをその環境に合わせて一部見直しする必要があります。その際、それらの看護システムとこの情報共有ツールをどう方向づけていくか、看護部の真価が問われています。

## 7 「情報共有ツール」の導入を検討している施設へのアドバイス

病院が担う役割や連携する部門によって、共有すべき情報は異なります。ですから、ケアのために必要最低



限でリアルタイムに共有できる情報なのか（看護師の負担にも配慮）検討いただくこと、職員が共有できるための講習を行い、記載方法・読み方・共有言語の理解を深めることが大切だと思います。当院のツールも未だ改良すべき点が多いものではありませんが、今後、同様な取り組みを希望される施設様にとって、少しでもお役に立てれば幸いです。ご興味があり、見学等を希望される場合は対応させていただきますのでご遠慮なく当院看護部までお問い合わせ下さい。



写真4 ベッドサイドのホワイトボード



写真5 ラベルを貼ったコップ



写真6 活動度ラベルを貼った車椅子

「伝える」って難しい」長崎県医療安全相談センター（医療政策課内）相談員 中川 洋美

今日の病院では、多くの専門スタッフが、それぞれの専門的な視点で、患者さんのためにどのような支援ができるか知恵を出し合い、連携し、チームとして患者さんの治療から療養までを支えています。特に看護部ではこれらの結果を看護計画に反映させ、患者さんの療養を支援しています。

しかし、残念ながら、当センターには、「必要な治療や看護を受けられなかった」、「もっと早くに気づいてもらえれば・・・」という相談が寄せられます。昨年寄せられた相談には「看護計画は患者の状況に合わせて患者の希望を取り入れてなされるべきなのに、それがなされていない。」という具体的なものもありました。もちろん、私自身、看護師ですから、看護計画が患者さんの状態を観察・把握した上で立てられ、その後に評価・見直しを経て、再び計画が立てられるという行程で行われ、そのために皆さんが現場で汗を流していることは百も承知しています。しかし、これらの過程は患者さんやご家族には理解しにくいのかもかもしれません。そんな相談を受ける度に、患者さんやご家族に「伝える」「知ってもらう」そして「わかって（理解して）いただく」ことはとても難しいことだと痛感させられます。

今回、公立新小浜病院様の取り組みをご紹介しますが、これは従事者間での情報共有だけでなく、患者さんやご家族とも現在の治療や病状を共有できるという点で大変優れた取り組みだと感じます。現在の状況と向かうべき目標を共通の言葉で、目に見える形で共有し、理解し合う。当然、目標が掲げられていますから、日頃の看護にも手抜きはできません。この方法はPDA 端末が進化し、個人情報の問題視される現在、幾分流れに逆行する手法かも知れません。しかし、こんな「伝える・わかっていただく」方法が実は一番伝わりやすい方法なのかも知れませんね。

医療安全推進週間のお知らせ

平成 27 年 11 月 22 日（日）～11 月 28 日（土）

毎年度、11月25日を含む1週間は医療安全推進週間です。

当週間は「患者の安全を守るための共同行動（PSA）」の一環として、平成13年に開始されました。医療機関や医療関係団体等における取組みの推進を図り、また、これらの取組みについて国民の理解や認識を深めていただくことを目的としています。

医療機関、製造団体等におかれましては、この週間を利用し、医療安全向上のための研修や啓発など、様々な取組みを進めていただきますようお願いします。



★お知らせ★

今年度から当情報誌（年2回発行）の姉妹誌として、医療法人向け情報誌を年2回発行します。医療法人制度におけるトピックや医事手続きについて解説する予定です。

患者カード

※担当者名を合同評価時、もしくは担当決定後すぐに記載する。

ご家族様へ

ご家族様への連絡事項を記載する。日付と記載者名を忘れずに書く!! 用件終了時必ず消す。(連絡カードも同様)

その他(統一事項)

統一事項やその他の決まりごとを記載。

★シグナルについて  
(トイレは車椅子に整容はコップに)

	排泄	整容
赤	トイレ内見守り	全介助
黄	ドアのすぐ近くで待機 コール後すぐ対応	セッティングが必要 仕上げが磨きが必要
青	コールがある為 離れて良い	自立

※排泄時の動作方法についてはカードにテプラで記入  
(例) 下衣の上げ下げ介助など

**患者目標** カンファで決まった内容を出来る限りカンファ実施日に記載  
(スタッフ、患者様が分かりやすい内容で)

**環境設定** 柵の種類・本数、設置場所など安全対策の内容(ブザーやセンサー、P柵開放など)

**移動** 移動手段(車椅子or歩行等)、歩行介助方法

**移乗** (車椅子の)移乗介助方法

**食事** 食事形態(キザミや治療食など)、摂取姿勢、介助方法、介助量、トロミの有無強さ

**排泄** 使用している下着の種類を簡略記載

布パンツ→(布) リハビリパンツ→(リ)  
オムツ→(オ) (日中と夜間を分けて書く)

・トイレ方法(病棟トイレorPトイレor尿器)  
・介助方法、介助量、付添いのシグナルはホワイトボードと車椅子カードの両方に貼る(左記参照)  
・排泄ケア対象患者はマグネット提示。  
★使わない内容のマグネットは患者カードの裏に貼っておく。